

箱根町子ども・子育て会議 議事要旨

日時：平成26年9月17日（水）

午後1時30分～

場所：分庁舎4階第5会議室

1 会長あいさつ

2 議 事

(1) 箱根町子ども・子育て支援事業計画（素案）について

～事務局からの資料説明～

～質疑応答～

会 長 未婚率が高い。サービス業が多く、若い人に出会いの場がない。県外から来ている単身者への対応を考える必要がある。また、放課後子供教室は遊びのあり方が問題。どのような場になるのか。ショートステイを実施しないということだが、夫婦ふたりだけで子育てをしていると、いざというときに預けられる場所が大事であり、周知をしてほしい。利用者支援については、メールでの相談対応を検討してほしい。

事務局 放課後子供教室は、今後内容を検討していく。ショートステイ可能な施設の周知を図っていく。メール相談についても検討していきたい。サービス・事業の周知は健診時等でもできると思う。

委 員 放課後子供教室も学校の空き教室を使用するかたちとなるのか。

事務局 学校と協議していく。

委 員 前回会議で防犯カメラに関する話を出したが、今後、学校と防犯について話し合いの場を設けることになっている。そのほか、バス会社と連携して、バスに設置したカメラを活用する検討もしている。

会 長 防犯については保護者の関心が高い。小田原の学校には防犯カメラが付いていると聞いたが本当か。

委 員 付いている。本町の学校でも防犯カメラ作動中という看板を付けた。資料にあったワンワンパトロールなどのソフト面の対策も抑止につながると思う。

事務局 ワンワンパトロールについては、来年度要綱を作成し、実施をしていきたい。

委 員 子ども110番が進んでいないので、より一層推進してほしい。

委 員 子ども110番の状況については、確認をした上で、改めてご報告したい。

委 員 ワンワンパトロールに限らず、いろんな方に声かけをしてほしい。

事務局 ウォーキングをしている方などを含めて、声かけを検討していく。

委 員 以前、宮城野で声かけをして、地域の方が腕章を付けて通学路等で見守る取り組みをしたことがある。学校からも声かけをしてもらい、学校単位での取り組み

みにした方が、身近な場として学校周辺での取り組みが進むのではないか。

委員 民生委員の集まりで子どもたちの見守りが必要ではないかという提案をしたところである。

事務局 見守りの体制案を来年度の本会議で提案する予定である。

(2) 箱根町保育の必要性の認定に関する基準について

～事務局からの資料説明～

～質疑応答～

委員 就労時間の下限時間が現行よりも短くなるのは、入所する側からすればよいことである。

事務局 本町は現行でも待機児童はいない。今後も待機児童を発生させないようにしていきたい。

委員 下限時間は状況に応じて変えられるのか。

事務局 状況に応じて変更を検討する。

委員 町の基準は他の自治体と比べてどうか。

事務局 県内では同様の基準の自治体も多い。

(3) その他

会長 幼稚園から小学校、中学校に上がるに従って、学校の活動への父親の関わりが少なくなってくるように感じる。父親の関わりによって、競争意識を育んだりすることも必要なのではないか。男女共同参画の視点でそのような取り組みも大事ではないか。

事務局 ご指摘を踏まえると、職業生活と家庭生活の両立に加えて、地域生活、地域活動における男女共同参画という視点も追加してはどうか。

委員 男女共同参画をよく理解していない方も多くいるのではないか。男女共同参画を広める取り組みも必要。小田原ではおやじの会などの活動があるので、PTAや育成会で声かけをしてはどうか。気楽な集まりをきっかけに、そこから夜回りなどの活動へのつなげていくと良いのではないか。

会長 10月2日の健康フェスティバルで男女共同参画の周知を行う予定である。そのほか多くの町民が集まる場でアピールしてはどうか。

委員 小田原ではおやじの会が結構立ち上がっている。行政主導では続いていけないので、自主的な取り組みが望ましい。

会長 以前話が出ていた放課後児童クラブと短大との連携についての現状はどうか。

委員 箱根町まで足を運ぶ学生が少ないが、遊びの専門家の育成などは町と連携して実施していきたい。また、おもちゃコンサルタントという資格の講座も実施しており、箱根町の自然を生かした遊びを広める活動なども検討していきたい。

委員 保育所の入所が生後5か月からとなっているが、それより前の月齢からの預かり事業が始まったと聞いているが、利用の状況を確認したい。

事務局 現段階では利用は1名であり、登録者は3名という状況である。

会長 以上で、本会議を終了する。

以上